

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078900216		
法人名	有限会社 裕和		
事業所名	グループホーム まほろば		
所在地 (電話番号)	福岡県柳川市三橋町正行351	(電話)	0944-74-0081
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】(H21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	9人, 非常勤 4人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	新築 / 改築
建物構造	木 造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 ( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新船小屋病院、村石循環器科、中川歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園と、柳川らしい堀に囲まれた場所に立つホームである。開設から5年目を迎え、徐々に近隣住民にもホームの存在が知られ、受け入れられてきつつある。他の施設を併設しない単独の事業所である利点を活かし、自宅で過ごす普段の生活の延長であるかのような毎日を過ごすことができ、利用者にも笑顔があふれている。ホーム名の『まほろば』とは、古語で「素晴らしい場所、住みやすい場所」という意味である。ホームで働く管理者や職員の努力と、近隣の方々の協力により、利用者にとっての『まほろば』の家となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で挙げた課題について事業所内で話し合いが持たれ、改善に向けて取り組んだことがうかがえる。地域へのアプローチを根気強く続けた結果、行事に誘われるようになったり、権利擁護についての勉強会を開催する等、できることから努力を重ねている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、園長、ホーム長、職員2名で話し合って作成した。今回の自己評価では「できている」ということの確認に留まってしまっているため、項目を分担するなどして職員全員が自己評価に関わり、これまでのケアの振り返りや新たな気付きのためのツールとして活用していくことが期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期開催される会議には、家族や民生委員、消防団員、老人会長、市職員等が参加し、事業所の活動内容や困難事例、参加者からの意見等について報告や話し合いがされている。会議内で指摘された、ホーム裏のフェンスの設置については出席メンバーの協力を得て、近隣住民と話し合いが持たれる予定であり、会議での討議内容を活かしながらホームの運営がされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記するなど、家族が意見や苦情を表わせる機会を設けている。年に1回、家族会も開催しており、家族の意見を運営に反映できるような取り組みも行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣の畑で採れた野菜をおすそ分けしてもらったり、地域の行事に誘われたりするなど、日常的な交流がある。ホーム側も夏祭りを企画し、地域の方にゲームや金魚すくい等で楽しんでもらった。以前無断外出があったときには近所の方がホームに声かけをしてくれたこともあり、地域との連携が徐々に強くなってきている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「こんな事業所にしたい」というホーム長の思いを込めた、『楽しく自分らしく』という独自の理念を掲げている。また、『地域での社会性を重視し、より自立できるように支援すること』という地域密着型の理念は、ご近所とのつきあいの中で日常的に実践できている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に、職員全員で理念を復唱することで共有している。さりげない声かけや見守りにより、利用者が自分らしい毎日を送り、楽しく過ごせるような支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム側からの継続的なアプローチにより、地域との距離はどんどん近くなっている。自治会や老人会等の集まりに参加してホーム便りを見てもらったり、お宮掃除やお寺の行事に誘ってもらったりと、地域の一員として受け入れられている。また、ホーム隣の畑から旬の野菜が差し入れられるなど、日常的な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は園長、ホーム長、職員2名で話し合っって作成した。前回評価結果については職員で回覧し、話し合いながら出来るところから先に改善していくなど、利用者の目線に立ってより快適な生活を送っていただけるように、評価を活かした取り組みをしている。		項目を分担するなどして、全職員が関わりながら自己評価に取り組むことが望まれる。単に「できている」という確認だけに留まらず、皆で意見を出し合いながら、「こういうことができている」、「こういう取り組みをしてはどうか」等、具体的なケアの振り返りや新たな気づきのきっかけとして活用していく事を期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催される運営推進会議では、ホームの活動状況・困りごとの相談・地域からの意見等、様々な議題が挙がっている。ホーム裏の堀には地域の要望もありフェンスをつけていなかったが、会議で「危険なのでフェンスをつけては?」という意見も出ており、出席メンバーの協力を得ながら、近隣と再度話し合いが持たれる予定であるなど、会議を活かした取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは相談事があれば出向いている。運営推進会議での行き来が多いが、その中でホーム便りを配布したり、ホーム運営に関するアドバイスを戴いたりと密に連携し、共にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	柳川市が発行している冊子をもらい、ホーム内での勉強会を行っている。現在、地域権利擁護事業や成年後見制度を必要としている利用者がいないため、職員全員が説明できるまでには至っていない。		今後制度を必要とする利用者が出てくる事も想定し、外部研修にも参加するなど、計画的に制度に関する理解を深めていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時に報告している。また、面会が少ない家族には手紙を書いて近況をお知らせしている。金銭管理については、個人のお小遣い帳を実際に見せながら報告している。玄関には写真入りの職員紹介が貼ってあり、職員の異動があった場合には来られたときに紹介している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、意見はなかなか入らない。重要事項説明書に市役所などに設置してある苦情窓口も明記しており、外部に意見を表わせる機会を設けている。また、家族会を年1回開催しており、意見があれば運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の自己実現を応援し、離職を最小限に抑える努力をしている。新しい職員が入ったときには、利用者へ紹介してまわるなど、早く顔馴染みになれるように工夫している。また、利用者個人別のファイルをきちんと整理し、生活歴や趣味、近頃の生活等も細かく記載されているため、職員交代があった場合でもスムーズに引き継ぎができる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、年齢や性別による制限は設けておらず、介護未経験の方も受け入れている。事業所で働く職員についても、自分が興味をもった研修に参加できるように勤務の面で考慮されており、自己実現の権利が保証されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	柳川市主催の人権研修に参加している。学習内容についてはホーム内勉強会のときに参加者が報告し、職員全員に周知できるような取り組みをしている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内外での研修を受ける機会を積極的に確保している。資格取得のために専門学校への入校も勤めており、将来を見つめた職員育成がなされている。		受講する研修内容に偏りがおこらないように、また、職員の習熟度に応じて段階的に育成していくためにも、事業所として研修計画を作成する取り組みに期待する。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、筑後地区の同業者と勉強会を行っている。その中で認知症ケアや法改正、困難事例等についてお互いに情報交換を行い、質の向上に向けた取り組みにつなげている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間無料の体験入所が可能であり、ホームの雰囲気を理解してもらった上での入居ができる。また、入居前に詳しいアセスメントを取り、普段通りのホームでの生活を送りながらも本人の好きなこと、得意なことを取り入れながら徐々に馴染んでいけるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歴史に詳しい利用者が、大河ドラマの内容について資料を作って説明してくれたり、地域の歴史を教えてくれたりするので職員も学ぶことが多い。また、食事時には職員・利用者というより1つの家族のように、和気あいあいと配膳の準備がされており、互いに支えあいながら生活している様子が見える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の出来事、お話された内容等を個人別の経過記録や日誌に細かく記録し、日々の会話の中からどんな事が喜ばれるのか、どんな事を求めているのかを本人本位の視点で把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を聞き、意志の表出が少ない方には経過記録や日誌を参考にしながら、話し合って介護計画を作成している。また、家族には面会時に希望をたずねており、「名前を書けるようになってほしい」という要望が出た時には、プリントや習字をする機会を設けるなど、それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画となっている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れつつ、3ヶ月に1回は定期的に見直し、また変化があったときはその都度、介護計画の検討と見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて一時帰宅を支援したり、また、遠くから来た家族の遅くまでの滞在や宿泊も可能であったりと、その時々々の要望に応じた柔軟な支援がされている。また、温泉に行きたい、花見に行きたいといった要望にも応えており、多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、ほとんどの方が入居前からのかかりつけ医を受診している。かかりつけ医や家族とも綿密に連絡をとっており、適切な医療が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について意見を聞き、ホーム側も方針を説明している。今までに1件看取りを行ったことがあり、かかりつけ医との密な連携も経験している。重度化した場合は繰り返し話し合いを持つなど、方針の共有ができています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は言葉遣いや誘導方法、記録のとり方にも配慮しており、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はみられない。個人情報や職員の休憩室に保管し、取り扱いにも注意している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の食事作りの忙しいさなかでも、新聞を取りに行く利用者を見守ったり、昼食後は自室でそれぞれの趣味に没頭したりテレビを見たりと、職員の都合や日課を優先することなく、各人のペースに合わせた思い思いの生活が送れるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が持参した取れたてのたけのこ・菜の花・つくしなど、春ならではの食材もメニューに取り入れられ、利用者も職員も楽しみながら一緒に食事をしている。また、なるべく自分の力で食べられるように刻み食にしたり、口に運ぶ動作がスムーズにできるよう、横でさりげなく声をかけながら支援したりしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に火・木・土の午後からの予定にしているが、「夜に入りたい」など、設定外の時間帯でも希望があればなるべく対応するようにしている。一人ずつゆっくり入浴を楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事得意な方に柳川の伝統的なさげもんを作ってもらい、ホームのリビングに飾ってある。また、俳句が得意な方が詠んだ作品も掲示しており、それぞれ目に触れるところに自分の作品が飾ってあることで張り合いが来ている。また、食事作りの手伝いや掃除など、一人ひとりの力を活かした役割が自然にできている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨が降っていなければ近所のお地藏さんのところへ散歩に行ったり、事業所の前でキャッチボールや縄跳びを行うなど、それぞれが思い思いに屋外で過ごせるように支援している。玄関前には花がたくさん咲いており、利用者も手入れを手伝ってくれるなど戸外にはよく出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解している。現在はほとんどないが、利用者の状態が不穏ときには玄関に掲示し、記録に残した上でやむを得ず施錠することもある。玄関には人の出入りが分かるように音の出る飾りが付けられており、利用者が外出するのを事前に察知できるよう工夫している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、利用者や消防も参加し避難訓練を行っており、職員は万が一の際の避難場所も把握している。また、夜間を想定して職員1名で避難誘導をするなど、様々な場面に対応できるよう訓練に取り組んでいる。日頃から地域の協力が得られるように、運営推進会議を通して呼びかけを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の希望を取り入れながら、おおよそ1500kcalになるようにその日に決めている。専門家にメニューチェックをしてもらい、栄養のバランスが取れているかも確認している。食事の摂取量は個人別に記録され、水分も食事時、おやつ時には必ず出すようにしており、おおよその摂取量が把握できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、清潔である。3月ということで、雛人形や利用者が作成した柳川の伝統的なさげもんが飾られ、季節感が感じられる。皆が集まる居間の隣には対面式のキッチンがあり、おいしそうな食事の匂いがしてきて食欲をそそる。共用の空間はどれも居心地がよく、利用者も我が家のようにリラックスして過ごされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが好きなものを持ち込むことが可能であり、各々その人らしい居室が出来上がっている。家族が描いた似顔絵があったり、以前表彰された賞状、ワープロなど、それぞれが大切にしているものが置かれ、居心地よく過ごせるように工夫している。		